

2013年10月25日

報道関係各位

株式会社 U B I C
代表取締役社長 守本正宏
(コード番号：2158 東証マザーズ)
(NASDAQ ティッカーシンボル：UBIC)

**Email データを数値化、視覚化し人物相関図を作成する新機能“Central Linkage”により
直観的調査が可能に
多くの新機能を搭載した「Lit i View®」バージョン 6.7 提供開始**

米ナスダック、東証マザーズ上場で国際訴訟支援サービスを手掛ける株式会社 UBIC (本社・東京都港区、代表取締役社長・守本正宏) は、この度、自社開発の e ディスカバリ証拠開示・支援システム「Lit i View®」(リット・アイ・ビュー)において、革新的な新機能、Email 相関図自動作成機能「Central Linkage」(セントラルリンケージ)を開発したことを発表致します。

人のコミュニケーション方法がデジタル化してきた現代、人物の相関関係を把握するには視覚化した相関図の存在が必須になってきており、人物相関図作成ツールが注目を集めています。当社の相関図自動作成機能「Central Linkage」は、媒介度を示す指標である“Betweenness Centrality”を使用した独自開発のアルゴリズムによる中心性媒介度数値*と、当社が独自開発した人工知能応用技術「Predictive Coding®」(プレディクティブ・コーディング)との連動により、相関図内における関連性調査、重要人物の抽出を容易に行うことを可能にします。

機能活用によるメリット

1. 「Predictive Coding®」 との連動

「Predictive Coding®」でスコア付けをしたメールの内、指定した点数以上のメールのみで相関図を作成することにより、誰が高スコアメールを最も多く所持しているのか、高スコアメールを所持している者同士が直接の関係を持っていないか、等の観点から調査が可能。これによりカスタディアン(対象者)漏れの防止、重要メールの調査漏れの防止等が可能。

2. メールやり取りの有無、送受信件数を視覚的に把握可能

画面上にメール送受信の繋がりのある人物が線で結ばれることにより、視覚的に誰

* 中心性媒介度数値(英語: Betweenness Centrality)

グラフの特性を解析する指標の一つとして用いられており、相関図中の人物が全ての最短経路にどれだけ寄与しているかを示している

と送受信があったのかを確認可能。また、図中の人物間に送信・受信それぞれの件数が表示され、過去何通送信して、何通受信したかが確認可能。

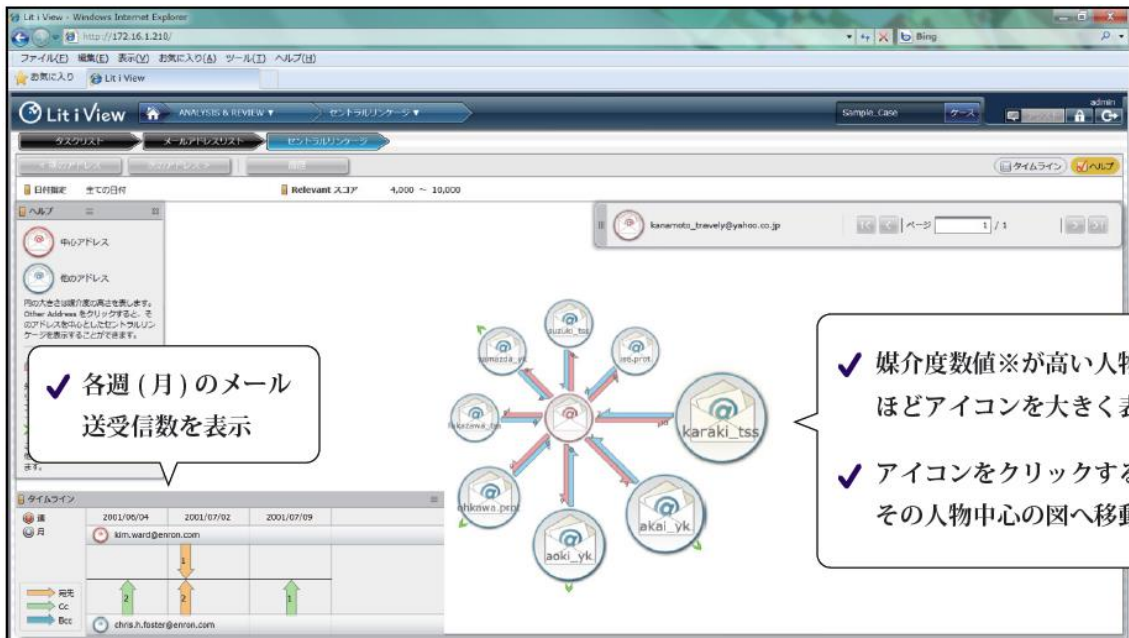
3. 対象人物間の送受信件数を時系列で表示可能

選択した対象人物間のメール送受信件数をタイムラインで表示することにより、他の週よりメール量に変化がある週等、普段と違う特異なやり取りを視覚的に判断可能。また、指定した週のみ、月のみ、送信のみといったように、メールを予め絞り込んで調査することが可能。

4. 重要人物の特定

中心性媒介度数値を全人物に対してつける事により、全関連図内において人物の重要度を図ることが可能。これにより社内連絡体制での重要人物、社外対応でハブとなっている人物の特定など、形式的な物ではなく人物関連図の中での実質的な重要人物の特定、相関関係におけるボトルネックの特定が可能。

当社の Lit i View®は、人物相関図自動作成機能「Central Linkage」によって、e ディスカバリ支援作業及びフォレンジック調査において大きな課題である「大量の Email の分析・解析」に関して、独自手法の提供を開始しました。これにより訴訟戦略、調査を有利、迅速、正確に導くことを可能にします。



▲「Central Linkage」操作画面



【UBICについて】

代表取締役社長：守本 正宏 東京都港区港南 2-12-23 明産高浜ビル

URL: <http://www.ubic.co.jp/>

株式会社UBICは、国際的カルテル調査や連邦海外腐敗行為防止法（FCPA）に関連する調査、知財訴訟、PL 訴訟などで要求される電子データの証拠保全及び調査・分析を行うeディスカバリ事業（電子証拠開示支援事業）のほか、電子データ中心の調査を行なうコンピュータフォレンジック調査サービスを提供する、リーガルテクノロジー総合企業。アジア言語対応能力では世界最高水準の技術と、アジア圏最大の処理能力を有するラボを保有。2007年12月米国子会社を設立。アジア・米国双方からアジア企業関連の訴訟支援を実施。2009年末には企業内でも国際訴訟における電子証拠開示が可能な電子証拠開示支援システム「Lit i View®」（リット・アイ・ビュー）を自社開発し、2011年10月からはクラウドサービスとして「UBICリーガルクラウドサービス」の提供を開始。また、2012年3月に、アジア言語に対応した「Predictive Coding®」（プレディクティブ・コーディング）技術を世界で初めて独自開発し、実用化に成功。

2003年8月8日設立。2007年6月26日東証マザーズ上場。2013年5月16日NASDAQ上場。資本金1,095,358,941円（2013年06月30日現在）。

〈本件に関するお問合せ先〉

株式会社UBIC 広報部 勝部 TEL: 03-5463-6344 FAX: 03-5463-6345